

2023年4月26日

市民生活協同組合ならコープ  
理事長 吉田 由香 様

市民生活協同組合ならコープ	環境監査委員会
委員長 和田 武	和歌山大学客員教授
当麻 潔	奈良県地球温暖化防止活動 推進センター長
辻村 輝美	組合員代表
松村 和子	組合員代表
藤田 有紀子	ならコープ常任理事
森本 宏美	ならコープ理事
竹本 万里子	ならコープ理事
金光 結香	ならコープ監事

## 2022年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後の目指すべき活動等の提案について、監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

### I. 監査概要

2022年度ならコープ環境活動まとめ書類監査(監査期間 2023年4月20日(木)~4月26日(水))

### II. 2022年度実績の評価

1. 前回監査の「今後の取り組みにあたっての意見」に真摯に対応し、多岐にわたる環境活動を組合員、職員、各種団体等ステークホルダーとの協同により展開されています。省エネ機器の導入や自家消費太陽光発電の設置による電気使用量の削減、ならコープでんきのCO<sub>2</sub>排出係数の低減により、最も重要な二酸化炭素排出削減目標を達成できていることを高く評価します。
2. 事業活動で使用する電力を再生可能エネルギー100%に転換する意思と行動を示す枠組み「再エネ100宣言 REAction」に登録され、社会に約束されたことを高く評価します。
3. 環境保全活動に取り組む団体への支援に継続して取り組み、奈良県内の環境保全に貢献していることを高く評価します。
4. 奈良市、天理市、田原本町、下北山村、天川村など県内の自治体との連携、協定等を締結し、地域の脱炭素に貢献していることを高く評価します。

### III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 市民・組合員参加型の再生可能エネルギー発電所を増やすことに努力ください。また、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を終了した太陽光発電をより一層ならコープでんきの電源に活用し、電力事業への市民・組合員参加を促してください。
2. 県内自治体との連携を強め、脱炭素に向けた取り組みの拡大に期待します。
3. プラスチック容器包装排出量の大部分は無店舗事業の内掛袋です。2030年に向けて抜本的な改革による削減に期待します。また、内掛袋のリサイクル回収量を拡大し資源循環に貢献ください。
4. フードバンク活動への協力を継続し、日持ちのしない商品などこれまで活用できなかった食材を地域で消費できる方法を検討ください。
5. 生ごみや使用済み天ぷら油、プラスチック容器包装材などの資源を地域内で循環できるよう取り組みされることを期待します。
6. 店舗や事業所での節電行動を組合員にわかるように掲示することや学習会などを開催し、気候変動問題への組合員の関心を広めてください。
7. 今後も全国の生協の環境活動をリードしていくよう、創意的で積極的な取り組みの推進を期待します。

2023年5月15日

環境監査委員会 様

市民生活協同組合ならコープ  
常勤理事会

### 環境監査報告書への対応

ならコープの2022年度の環境に関する取り組み全般について、前進面への評価と、今後の取り組みにあたってのご意見・ご提言を賜り、深く感謝申し上げます。ならコープグループ役職員一同、環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築に向けた取り組みを、組合員とともにすすめてまいります。今回の監査で評価いただいた内容を励みとし、「環境監査報告書」でご指摘いただいた内容については、真摯に受け止め、以下のように対応いたします。

現在、環境問題に関する情勢は大きく変化し、想定を上回る水害や干ばつが全世界で起こり、異常気象と温暖化が顕著になってきています。こうした「地球の危機」を回避するためには、現在わたしたちが依存している化石燃料由来のエネルギーを、CO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー主体に根本的に転換することが必要です。しかしロシア軍のウクライナ侵攻により引き起ったエネルギー不足の不安からエネルギー価格が上昇し、再生可能エネルギーの拡大に取り組む新電力各社は事業存続の危機に陥っています。日本政府は2022年12月、GX(グリーントランスフォーメーション)基本方針を決定、世界が再エネ中心のエネルギー政策をとる中、次世代原発の開発・建設、既存原発の60年超の運転を認めるなどこれまでの方針を大きく転換し、原子力発電推進に舵を切ろうとしています。環境やエネルギーの問題に私たちひとりひとりが関心をもち、未来世代に責任ある選択と行動をしていく必要があります。

ならコープは「子どもや孫のために美しい地球と自然を残したい」という純粋な想いと倫理観を掲げ、2030環境ビジョンで策定したCO<sub>2</sub>排出量削減、プラスチックや食品ロス削減目標達成に向け取り組んでまいります。

#### <ご意見についての対応方針>

1. 原子力発電に頼らない社会づくりに向けエネルギーの地域内生産と消費に取り組む電力事業「ならコープでんき」の理解を深めながら組合員が参加しやすい情報提供を行います。市民共同発電所づくりに取り組む地域の環境団体への協力だけでなく、ならコープグループの発電所づくりにも組合員の出資・利用・運営にかかわる仕組みづくりを検討し、市民・組合員の関心を高めてまいります。組合員家庭の屋根で発電した太陽光発電は地域の小さなみんなの発電所と位置づけ「ならコープでんき」の脱炭素化をすすめます。
2. 自治体とともに脱炭素に向けた取り組みを拡大します。災害時にも活用できる再生可能エネルギーと蓄電池を組み合わせた太陽光発電の自家消費モデルなど災害に強いまちづくりに貢献します。
3. プラスチック容器包装排出量の70%程度を占める無店舗事業の内掛袋は衛生面、配送ツールとして利便性、低価格であることなど現時点では切り替えることは困難な素材ですが2024年夏に開設予定の新物流センター稼働時に常温商品のセット方法を変更して大幅削減に取り組みます。また、店舗での量り売り、ばら売りを研究し、容器包装削減に取り組んでまいります。
4. 食品ロス問題に対してはフードドライブの実施や、店舗や無店舗事業の余剰品をNPO法人フードバンク奈良への寄付、フードバンク奈良を通じての子ども食堂への商品提供等に取り組んできました。2023年度はこれまで活用できなかった組合員からのキャンセル品や冷蔵・冷凍商品などの提供、余剰農産物の商品化など、まだ食べられる食材を無駄にしない仕組みづくりに取り組みます。
5. 気候変動の影響による食糧不足への懸念、ロシア軍によるウクライナ侵攻の長期化によるエネルギー不安など、限りある資源を使いきることがこれまで以上に大切になっています。廃棄物をエネルギー資源として地域内活用することは容易ではありませんが取引先や産直生産者、五條市のコープの農園などでの資源循環の仕組みづくりに取り組んでまいります。